

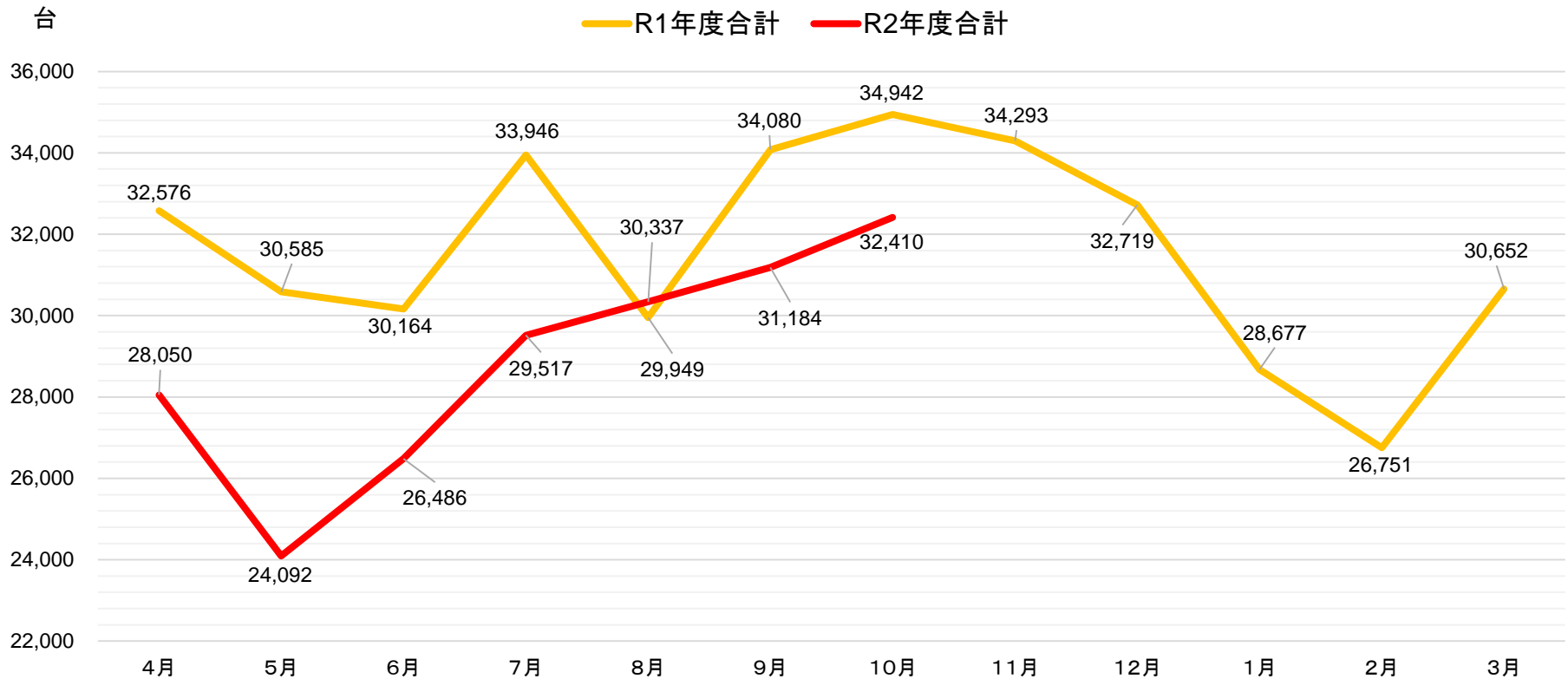
新型コロナウイルス感染症による 近畿における物流への影響

国土交通省
近畿運輸局
令和3年1月

近畿のフェリー(自動車航送[トラック])輸送状況

近畿のフェリーにおけるトラックの自動車航送(台数)では、4月～10月の累積値で昨年度比約10%の減少となった。

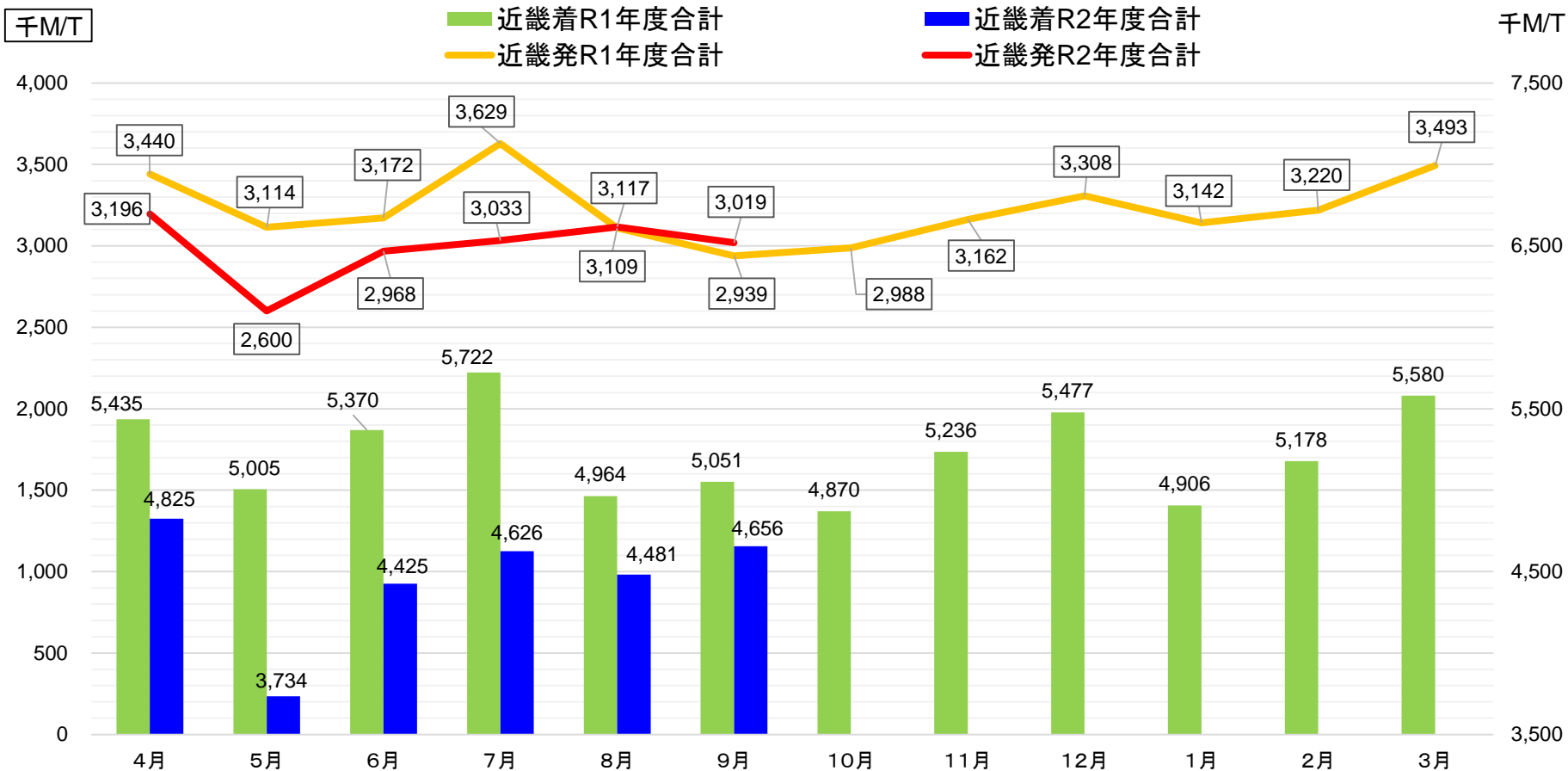
新型コロナウイルス感染拡大を受けた緊急事態宣言の発令に伴う対策等により、各倉庫や工場からの出荷・生産停止のあおりを受け輸送量が激減。その後生産・出荷とも再開されたものの、全国の地域経済の需要低迷やインバウンドによる消費増大が見込めないことなどが影響した。また、緊急事態宣言発令により政府の外出自粛規制などで旅客が激減したことから、各社とも減便による対応を余儀なくされたことも、貨物輸送に少なからず影響したと思われる。



近畿の内航海運輸送状況

近畿の内航海運における輸送状況をみると、令和2年4月～9月の累積値（着発合計）で昨年度比約12%の減少となった。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国内の経済活動停滞が貨物船、油送船の荷動き低迷に大きく影響。

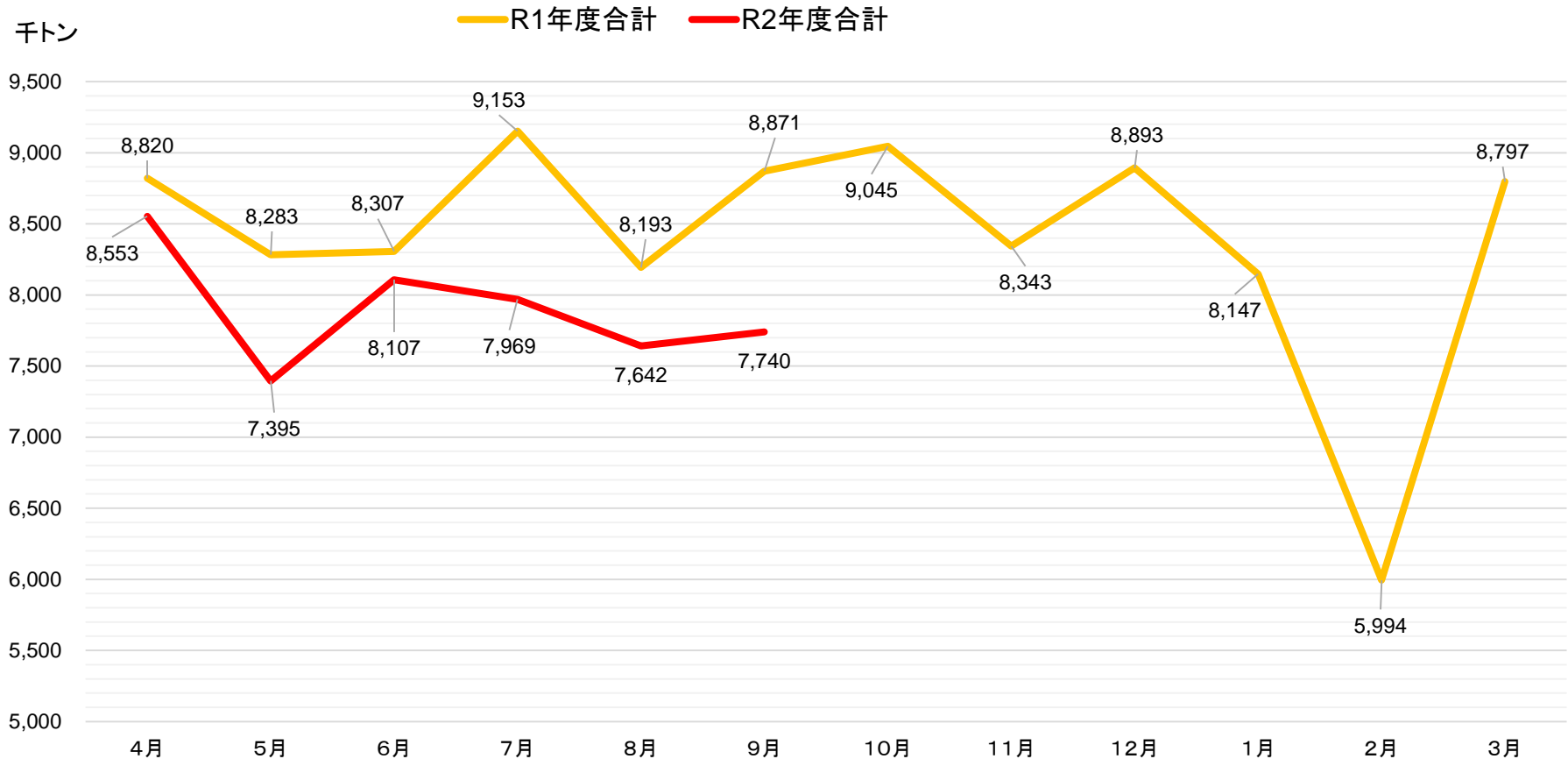
（参考）令和2年11月12日に公表された日本内航海運組合総連合会による2020年度上期の内航輸送主要元請オペレータ60社の輸送実績によると、貨物船全般は前年同期比18%減少，油送船全般は12%の減少。



(図表は内航船舶輸送統計調査をもとに作成)

大阪港の港湾運送取扱状況（船舶積み卸し実績）

大阪港の港湾運送における取扱状況（船舶積み卸し実績）では、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、昨年2月は前年同月比20%の減少となった。その後、4月～9月の累積値で前年度比約8.2%の減少となった。減少幅が大きいものとしては、鉄鋼、自動車関係。



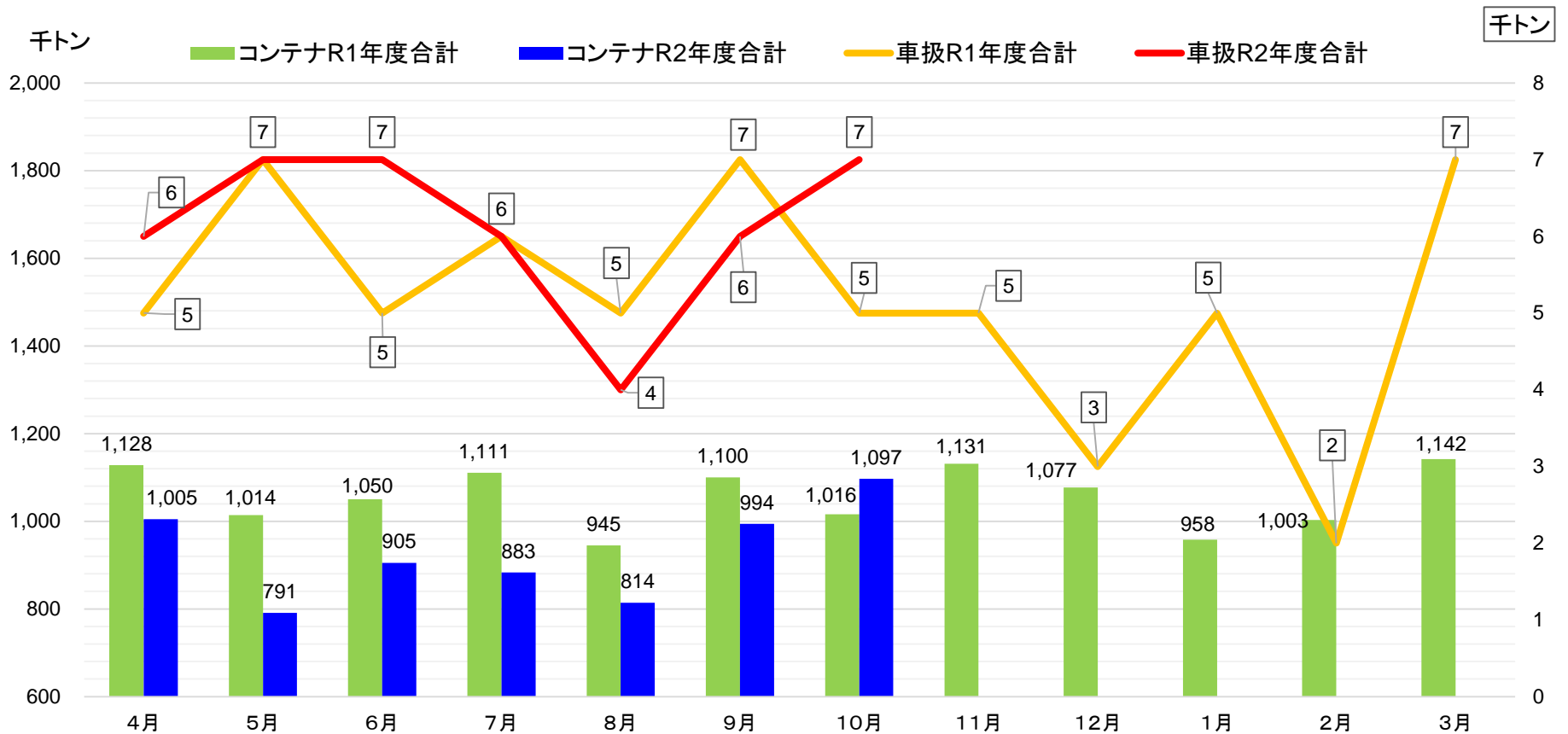
※港湾運送事業報告規則に基づく港湾運送事業者から毎月提出されて実績を集計したものです。大阪港の実績値には、堺泉北港を含んでいるため、各港湾管理者発表の統計情報とは異なります。

近畿の鉄道貨物輸送状況

近畿の鉄道貨物における輸送状況では、4月～10月の累積値で昨年度比約12%の減少となった。

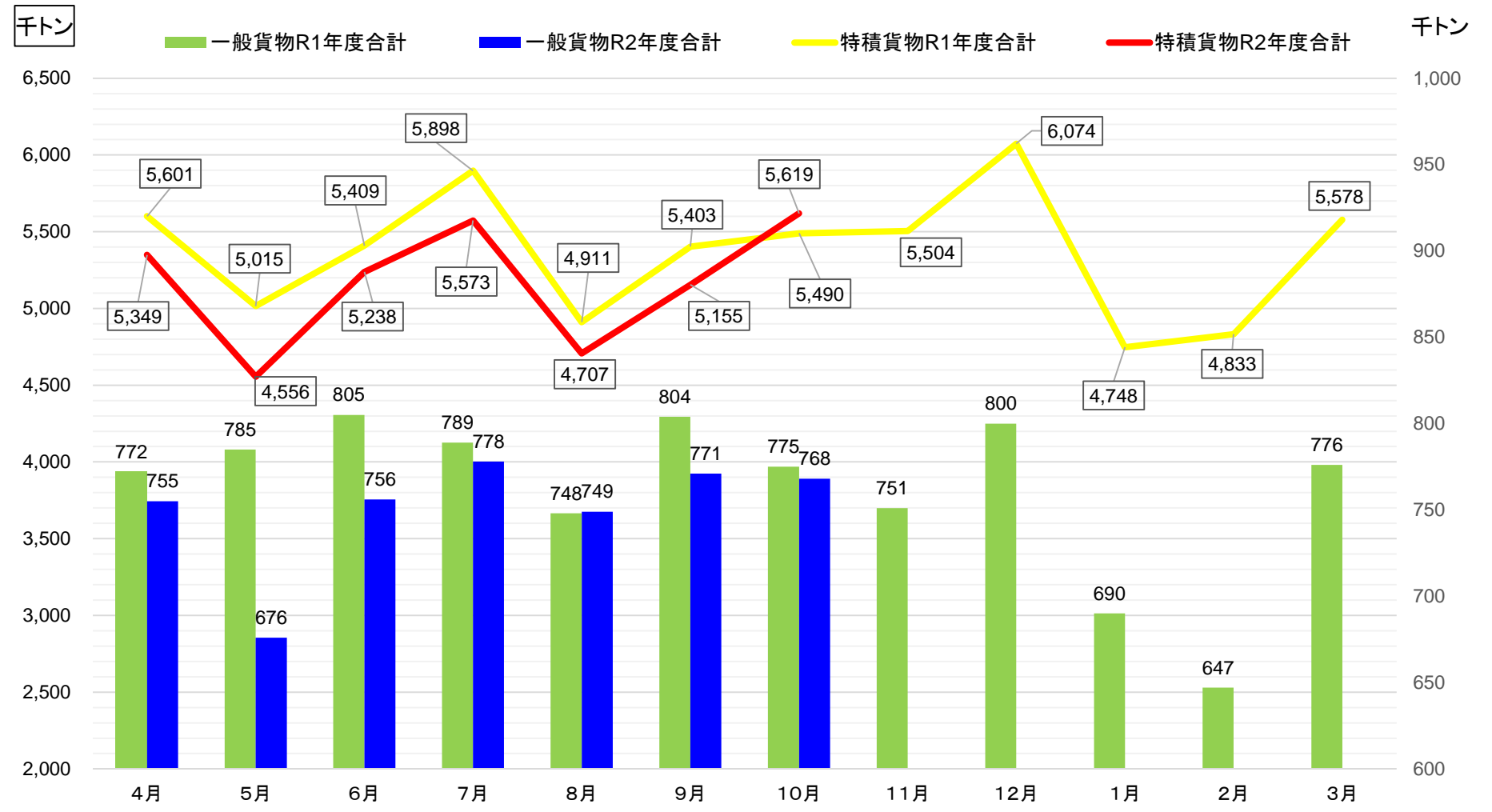
コンテナ輸送においては、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷を受け、ほぼ全ての品目で前年を下回った。例年輸送実績の割合の大きい品目である紙・パルプは国内需要の低迷により大幅に減少し、食料工業品や自動車部品なども、外食産業需要の減少や車両の販売不振、出勤制限等による工場稼働制限の影響を受け減少した。

一方、車扱輸送については、全国的には外出自粛による石油輸送が低調に推移しているが、近畿管内においては石油、セメント石灰石といった品目の輸送が少なく、特にその影響を受けていない状況である。



近畿のトラック輸送状況

近畿のトラック輸送状況は4月～10月の累積値で昨年度比約4%の減少となった。昨年のコロナウイルス感染症の拡大により、鉱工業生産活動や設備投資の低迷を受け、巣ごもり需要に伴う宅配便の輸送量の増加などはあったものの輸送量は減少した。



※報告書が提出された事業者のみの集計値

大阪・兵庫の倉庫保管状況

大阪府・兵庫県の営業倉庫における保管状況では、4月～9月の累積値で昨年度比約5%の保管残高増となった。

入庫高は4月～9月の累積値で昨年度比7%減であり大幅な減少は見られないものの、緊急事態宣言の発令に伴う店舗休業や外出自粛により消費が低迷したため、倉庫からの出庫が減少し保管残高が増加している。

ただし、今後は生産調整や輸入調整により入庫高が減少し、保管残高も減少するものと思われる。

